

# <分散投資でブレを小さくする(リスクの低減)>

「複利効果」を味方にするために「ブレ」が小さい運用を行う

【ブレが大きい運用と、ブレが小さい運用】

		運用開始	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後	収益率の単純平均
A	価格	100.0	110.0	99.0	113.9	119.5	119.5	125.5	121.8	140.0	133.0	153.0	4.7%
	収益率		10%	-10%	15%	5%	0%	5%	-3%	15%	-5%	15%	
B	価格	100.0	140.0	84.0	109.2	131.0	78.6	102.2	66.4	83.0	74.7	97.2	5.0%
	収益率		40%	-40%	30%	20%	-40%	30%	-35%	25%	-10%	30%	

○特に大きな下ブレをこうむると、挽回に多大な時間と労力を費やし、運用効率が大幅に低下してお金が増えなくなります。

<20%下落すると20%上昇では元に戻らない、25%上昇が必要>

<50%下落すると、元に戻すためには倍にしなければならない>

○分散投資（アセット・アロケーションが重要なのは）

- ①『複利効果』を味方にするためには「ブレ」が小さいことが条件
- ②ブレを小さくするために分散投資（ポートフォリオ運用）を行う
- ③値動きの異なる金融商品を組み合わせるのが分散投資の基本